

しあわせの空

本校教育目標

第1号

豊かな心と生きて働く力を身に付けた子どもの育成



令和2年6月1日
熊本市立田迎小学校
校長 松本 公一

○学校再開

本年度第1号の「しあわせの空」をやっと発行いたします。長い休校でした。タブレットを使った授業が始まっていたとはいえ、遠隔学習を行うにあたり、保護者の皆様にはインターネット環境や接続機器の準備や設定に大変なご心配とご迷惑をおかけいたしました。また、学習内容につきましてもお子様への声かけやご指導をいただき、ありがたく思います。今日から学校が再開しますが、年度末を含めると3ヶ月間の学校教育を取り戻さなくてはなりません。学習内容については学び残しが無いように計画的に授業を進めていきます。行事等については、延期して実施するのか中止するのか検討して参ります。

学校は再開しましたが、新型コロナウイルスが無くなったわけではありませんので、引き続き、感染予防を心がけていきましょう。

○あわてなさんな

谷川俊太郎の詩集から紹介します。

谷川俊太郎詩集

魂のいちばんおいしいところ

父親の若い頃そっくりの笑顔で

あわてなさんなと息子は笑う

どうする気だと父親が叫ぶ

不幸にしないでと母親は泣く

目をさませよと息子がかみつく

夢を見ないでと母親が云う

地図は要らないと息子がいなす

道を覚えろと父親が云う

空が要るんだと息子は目を伏せる

翼をあげるわと母親は云う

種子が欲しいんだと息子は呟く

花をあげようと父親は云う

あわてなさんな

一読ただけでは意味が理解できませんでしたので、繰り返し読んでみるとじわっと分かってきました。種子が欲しい子ども、空が要る子どもに、親は花や翼をあげようとします。ところが、親がよかれと思って与えるものを、子どもが喜んで受け取ってくれるとは限りません。

子どもが本当に欲しいものは何なのか、どんな気持ちを持って日々を過ごしているのか、親は理解しようとしているのかということの問題提起しているのではないかと思います。

自分の思い通りにならないからといって、「不幸にしないで」「どうする気だ」と泣き叫ぶ親たちに、「あわてなさんな」と子どもは思っているかもしれません。

子ども時代は大人と違って、ゆっくり時間が過ぎていきます。自分が自分らしくなっていくのには時間がかかります。子どもが望んでいるのは、自分を受け止めてくれる親、見守ってくれる親、温めてくれる親…。

親という字は、「木の上に立って見る」と書きます。漢字の成り立ちからも、親としての関わり方のヒントが得られそうです。

子どもは自分のペースで生きていこうとします。親にだってそういう時代があったはずですよ。（私は未だに自分のペースですけど。）

親